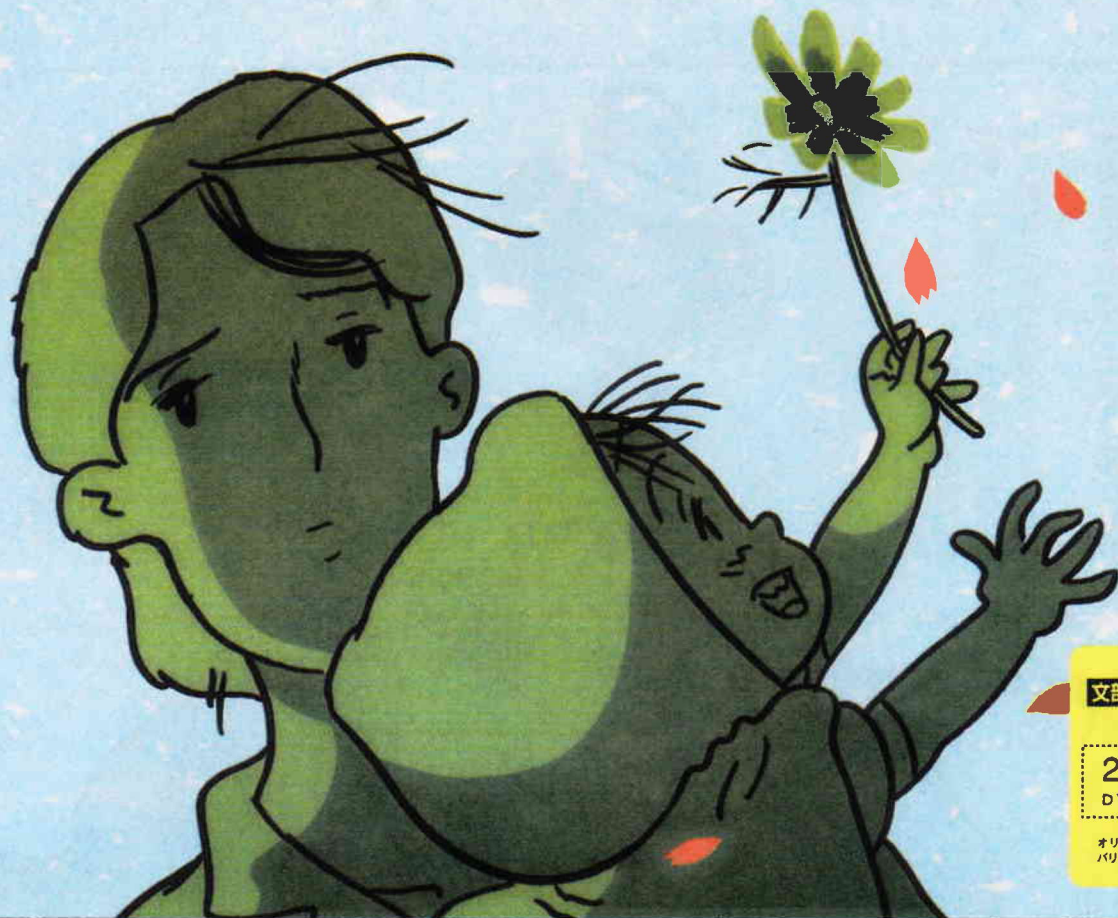


HITOTSU-NO-HANA
神山征二郎[脚本・監督] 今西祐行[原作] (実業之日本社刊)

一つの花

「ひつだけちよつだい」
これがゆみ子の覚えた最初の言葉でした。
——なんかわいそうな子でしよう。一つだけちよつだいと言えば、
なんでももらえると思ってるのね。
——この子はみんなちよつだいと言って、両手を出すことを
一生知らずじまいかもしれない……。



文部科学省選定 カラーアニメーション 23分

2本組セット (オリジナルタイプ)

DVD ライブラリー価格 60,000円+(税)

オリジナルタイプ…通常の映像・主音声
バリアフリータイプ…通常の映像・主音声・副音声・字幕入り

北辰映像株式会社

〒350-0461 埼玉県入間郡毛呂山町中央3-32-3

TEL: 049-298-5792 FAX: 049-298-5793

E-mail: co@hokushineizo.com

原作……	今西 祐行	(実業の日本社刊)
監督・脚本……	神山 征二郎	
プロデューサー……	高橋 美光	
演出……	青木 雄三	
美術監督……	龍池 昇	
オーディオ ディレクター……	山田 悦司	
編集……	井上編集室	
録音制作……	水野事務所	
製作協力……	タカハシスタジオ	
製作……	山之内光子	
配給……	北星株式会社	

「つたけらふんだい、
これが、ゆみ子のはっきりおぼえた最初の言葉でした。
まだ戦争のはじかったころのことです。
そのころは、おまじにゆんだの「キャラメル」の「チョコ
レット」だ。そんな物はどこへ行ってもありません。お
やつとどこではあませんでした。食べる物といはれ、お
米の代わりに配給される、おいもやまのやかばちやこあり
ませんでした。」

今
西
枯
梓

光村図書出版・教科書より抜粋



この作品は一九五六年に、日本児童文学者協会の新人賞に輝き、三社の教科書（小学校国語四年）にも採用され、全国の子供たちに親しまれています。

脚本・監督の神山征二郎は、「ハチ公物語」「白い手」「二つのハートニカ」「ひめゆりの塔」など、平和と生命の尊さを描きあげること、定評ある監督です。

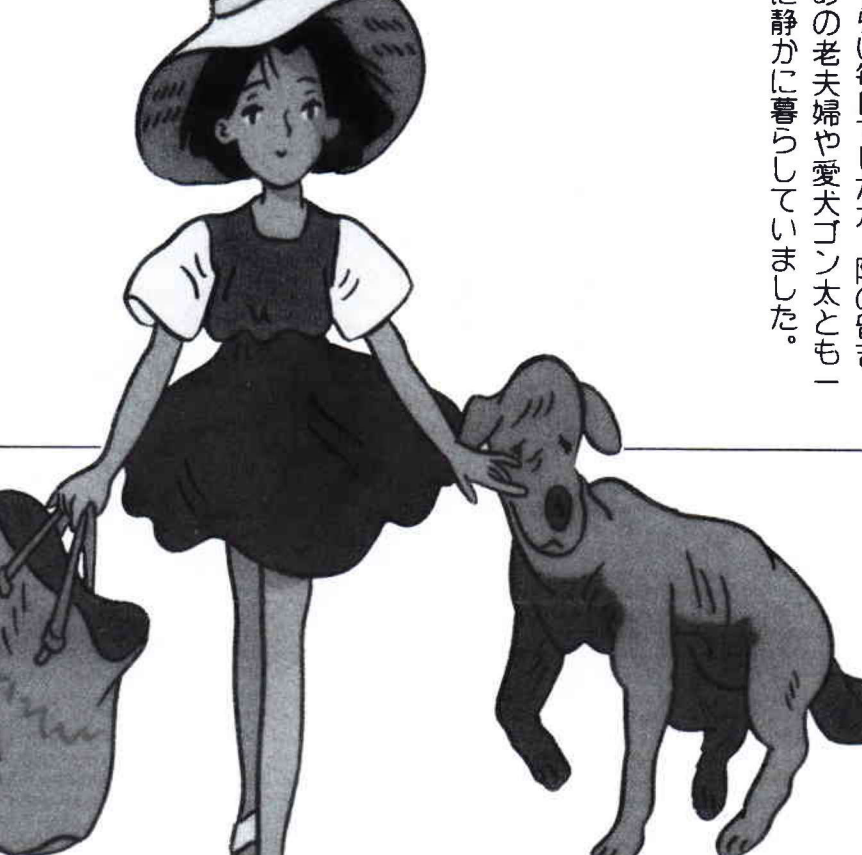
この短編作品の背景にある太平洋戦争の現実、食料難による飢餓感をわかりやすく伝えるために、原作にはない周囲の隣人や動物を登場させ、見事にその狙いを成功させています。

昭和十九年（一九四四年）の夏、日本は太平洋戦争の真只中、戦況は悪くなるばかり、食糧物も不足していました。

まだ二歳にならないゆみ子のお父さんは、身体が弱いので兵隊にも行けず、工場で働いています。

幼いゆみ子が覚えた最初の言葉は「一つだけ、ちょうだい」——いつもおなかをすかして「もっと、もっと」とねだるゆみ子に「じゃあね、一つだけ」と分けてくれるお母さんの言葉でした。

つらい毎日でしたが、隣の留吉・うめの老夫婦や愛犬ゴン太とも一緒に静かに暮らしていました。



しかし、ついにゆみ子の父にも赤紙（招集令状）が来て、兵隊と

しかし、ついにゆみ子の父にも赤紙（招集令状）が来て、兵隊として戦争に行かねばならなくなりました。

お母さんは、大切に残しておいた米で二ギリ飯をつくら
ます。

「この味は格別だ。一つだけ、ゆみ子に残してやろう」とお父さん。お父さんを見送りに行く途中、おなかのすいたゆみ子は二ギリ飯を食べさせてもらいます。

馬に着いて列車を待つうちに、ゆみ子はまた「ひとつだけちようだい、オニギリ」とねだって泣きます。困ったお父さんは、駅のホームの隅に咲いていたコスモスの花を一本とって、「さあ、一つだけの花、大事にするんだよ」そして、お父さんは出かけて行き、二度と戻ってきませんでした。